

まちづくり協議会を立ち上げるということ

(’25/11/2 関谷 昇教授のセミナーより)

こんにちは、生活上の諸問題を解決するために
地域住民同士の共助が重要に...

☞自助(家庭)・公助(行政)の限界

いま「安心な暮らし」を支えるには
自助のサポート、公助との連携のため

新しい共助のしくみ

を創り出すことが必要!



行政に頼りっぱなし、ボランティアによる地域貢献に頼りっぱなしでは持たないから
自分達の暮らしは自分たちで支える「GIVE & TAKE」の**地域住民自治組織**を創ろう

◆地域生活者の多様化に対応するしくみを創る

多様=世代・価値観・環境・経済などに違いがあること

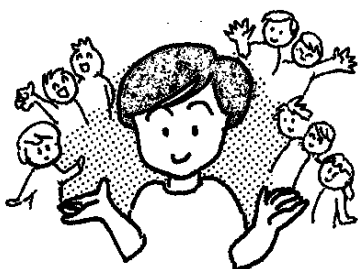
☞ ☆個人の能力 ☆個別のニーズ ☆様々な組織の連携.....に対応する仕組みを創るには
相互理解をすることが大切。

自分と違う人(子どもも含めた多世代の住民)との対話機会をたくさん持とう。

そして、お互いの考えを理解すると個々の地域住民から共感を得る糸口が見える。そこから
地域住民がみんなで参加する自治組織を創っていく

☞ ☆小中高生を地域社会参加の入口に導く ☆20代のスキル UP を支援 ☆30代からの、
子育て生活など人生経験・プロボノ(自分の持つスキルで社会貢献したいキモチ)などを活用
☆60代からの、仕事や家族構成・考えや能力の変化を踏まえた、居場所・生き甲斐(やっ
てみたいと思っていた事の実現)を提供...其々の世代の特性に対応したカタチを用意

☞ それぞれの住民の「地域(マイタウン・ふるさと・商売エリアなど)との関わりへの想い」を汲む



◆地域生活者によりそう自治組織とその運営体制を創る

☞ 地域には多様なグループ(家族・近隣・子育て・教育・出身・高齢者・
趣味・事業絡み)そしてインターネットなどが存在し、それぞれ個人の
価値観で身の置き方が違う

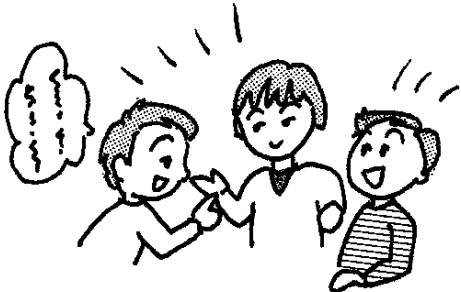
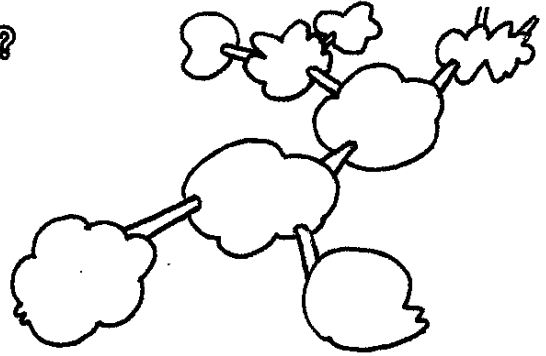
☞ さまざまなグループを「同じ地域に在るもの」という共通のテーマで繋ぐのが

「地域コミュニティ」=地域住民自治組織

…地域に在る人、場、条件などの特性を踏まえて運営・活動していこう

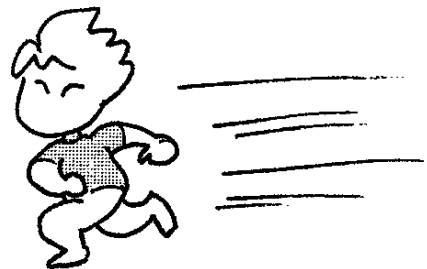
◆そういうコミュニティの具体的なおしごとは？

☆グループ内の課題を他グループと共有して
解決策を探るため、グループ同士を結びつける
と同時に そのネットワークを見極めてさらに
よい活動グループや ネットワークに導いていく



☆個人ではできない事や1グループではできない事を
他のグループと調整したり、相応しい規模のグループに
再編したりして、個別の負担を軽減する

☆新たに出てきたニーズに応じて新規活動を
発案したり、ニーズの変化に応じ活動を整理
したり、状況変化にスピード感を持って対応する



☆世代を超えた長期的な視点で、段階的に
地域環境の成長を目指す継続性を持つ
☆地域内では不足の部分について行政や
企業など地域住民外に協力・企画提案・
活動参加を求めて他者と連携・協働を図る

☆人材や資金を得られるよう、地域住民に周知、
共感・納得感を抱いてもらう。 そのためには
「活動の見える化」が必須。

☆地域全体に、具体的でわかりやすい情報(「私も
自分の暮らしのために参加しよう」と思えるような
メッセージ)の発信をする



まちづくり協議会の役割と可能性

(26/1/18 鈴木亮平氏のセミナーより)

これからのまちづくり

=地域の実情に沿った、地域住民主体のまちづくりが鍵！

◆行政が主導してまちをつくる時代ではない

→地域の住民・事業者が自分達のまちをつくる

(行政は「行政にしかできないこと」に注力すべき)

→地域の中で動ける人がその人の生活ペースで

今できる事を無理せず積み重ねていく

(地域の実情は地域住民が一番理解している)

☞地域の実情に合った、持続的な、アクションを起こす

楽しい



◆ハードをしっかりと整備する時代ではない→低コスト化・誰でも参加できるもの

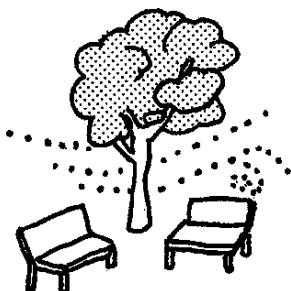
→使い方を工夫し今ある空間を活かすなど

今できる事を無理せず積み重ねていく

☞軽やかで柔軟でより効果的なアクションを目指す

↑みんなで知恵を出し合い、臨機応変に負担感無く動けるように

今できる事を実験的に繰り返して前に進む



小学校区から始まる新しいまちづくり

まちづくり協議会の役割と可能性

地域でのアクションを起こしやすい土壌(仕組み)を創る

☞それぞれの住民が「自分の課題意識や感心事」を深め、誰かに発信できる仕組みづくり

☞それぞれの住民が「自分がやってみたい事」にチャレンジし易い仕組みづくり

☞それぞれの住民が「自分がいま携わっている活動」をステップアップさせる仕組みづくり

◆情報やアイデアの集まる団体となり 地域住民の様々な活動の背中を押し、
新たな活動を生み出すプラットフォームになる

まちを楽しくする為に、住民それぞれの個性やニーズによる想いを積み重ねていく

従来の自治組織 ☞ 機能重視、組織的=やらなきゃいけない事が降ってくる

まちづくり協議会 ☞ 地域活動の強力なサポーターであり地域を楽しくする仕掛け人

◆地域住民が自分の個性を活かしてやりたいことにチャレンジするのを支援する

◆各団体・各活動を後押しし、人(グループや個人)を繋げるハブになる

まちづくり協議会があれば自分がやりたい事にチャレンジでき、

その積み重ねで活動をふくらませていく事ができる！

まちづくり協議会の使い方

- ◆まちづくり協議会を利用して、自分がやってみたいことをやってみる
- ◆まちづくり協議会を活用して自分をステップアップさせてみる
- ◆まちづくり協議会を通じて他の活動とネットワークを作ってみる

主役は「わたしたち」→「自分らしさ」を活かして自分の住むまちを楽しくする



☆ まちづくり協議会のサポートによるアクション…ヒント集 ☆

①どんなアクションを起こす?・・・▷ 思いついても、最初は結果が見えにくいもの

- ☞ やってみてどうなるか?は漠然としていていい。まちを豊かにする確率を少しでも高める事を探る
- ☞ すぐに成果が出なくてもとにかく動かしてみる。

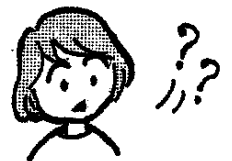
②アクションの先に何がある?・・・▷ 起こす時には面白みと不安があるはず

- ☞ いい方向に持って行けるように普段から議論を交わす(まち協がその場となる)
- ☞ ちょっとずついろいろな人が関わり始める(まち協が繋げる)
- ☞ 行政の支援が無くなったらどうするか(まち協の場を借りて自分達で考える)
- ☞ 続かない事業は中座して良い(対応力・柔軟性を持つ)



③どうやって持続させる?・・・▷ 活動に疲弊すると離脱者が出てくる

- ☞ 負担感を持たない(「続けなきゃいけない」という義務感は苦しい)
- ☞ 其々がやりたいことに向かう=楽しめる(個人の「やりたい気持ち」が推進力となる)



④どういう組織があるといい?・・・▷ 起こす時は小さな1個人でいい

- ☞ 「自分のためのアクション」→まち協が人を繋げる→関わる住民や事業者が巻き込まれふくらんでいく(住民や事業者が関わり続けられるアクションは長続きする)
- ☞ 情報を集め広く共有して、アクションを繋げたり時には整理したりして化学反応を起こす
化学反応=まちを楽しくする力がずっと大きくなるから大切!



→ セミナー聴講後、①～②と④を体感するためのワークショップを展開